

「学生によるミタカ・ミライ研究アワード 2020」申込書

「学生によるミタカ・ミライ研究アワード 2020」において、下記のとおり自らの調査研究を発表したいため、募集要項に基づき応募します。

研究テーマ	三鷹市から発信する防災プログラム『三鷹モデル』の提案―「誰ひとり取り残さない防災」のために
-------	---

◆応募者（応募代表者）

(フリガナ) ゴトウ ノリコ	大学名、学部名、ゼミ名(あれば)
氏名 後藤 範子	東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程 1 年 教育支援協働 実践開発専攻 教育協働研究プログラム 柴田彩千子ゼミ

◆共同提案者

氏名(フリガナ)	大学名、学部名、ゼミ名(あれば)
開原 安理 (カイラ アリ)	東京学芸大学大学院(柴田ゼミ)
根本 浩美 (ネト ヒロミ)	東京学芸大学大学院(柴田ゼミ)
小島 俊介 (コジマ シュンスケ)	東京学芸大学大学院(柴田ゼミ)
友永 和希 (トモカガ ヒロキ)	東京学芸大学大学院(柴田ゼミ)
飯田 菜月 (イイダ ナツキ) 他	東京学芸大学教育支援課程「社会教育実践論」履修生

◆研究の動機、テーマに関する考え、研究計画・手法などを、600 字以内で記載

近年、自然災害の増加が顕著であり、今後 30 年の間に 70%の確率で、都市直下型地震が起こることが国土交通省から公表され、集中豪雨により各地で河川の氾濫や土砂崩れの被害が起こる確率が高くなっている。一方、私達の身近な生活圏に眼を向けてみると、たとえば、障がい者、子ども、高齢者、日本語の理解の十分でない外国人等、災害弱者の存在を見落とすわけにはいかない。特に来日外国人については、出入国管理及び難民認定法の改正により、今後増加の一途を辿ることが予想される。このような状況の中、災害弱者と呼ばれる人々を、誰一人として取り残さないための「地域ぐるみの防災教育」が一層求められる。

本研究は、学校を核とした地域づくりの取組みが活発である三鷹市において、生活文化の異なる外国人や子ども達が、正しい防災の知識を獲得し、自分達の命を守り、防災意識を広げ、そして将来地域の防災リーダーとして、日本人と共に社会を支える存在になることを目指した防災教育の在り方を検討する。学校の役割を重視しつつ、消防署、市役所、市民活動センター等と連携をとり、「共生&防災の町」として、防災教育に関する地域協働のモデルを、ここ三鷹市から発信したい。「つなぐ」「ささえる」「つむぎだす」という三鷹市の市民協働の町づくりの目標はそのまま、防災教育の指針となるだろう。

今後は、学内にラボを設け、VR 使用を含めた体験型学習と地域連携モデルの開発実践を行う。